慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	物価騰貴の隠れたる重大原因
Sub Title	
Author	堀切, 善兵衛
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1918
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.12, No.12 (1918. 12) ,p.1715(81)- 1723(89)
JaLC DOI	10.14991/001.19181201-0081
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19181201-0081

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

め、自ら此取引に對して保證すれば、自然之に當るを得べし。或は相續稅納付の場合に於て認めらるゝが如く、不動産を所有する財産家に限り、徵課金納付の期間を或る程度に延長し、一種の年賦法を許すも可なり。國家にして此延長期間に對して、一定の利子を徵收し、而して利子が公債の利率と大差なき以上は、年賦法の下に、何等損失の伴うものなきを以てなり。

徵課金制度に關する實際上の議論は今や將に發展の境に居り、理論上に於て可なりとするも、直に實行せらるゝの機運に至るや否や、未だ明ならず。ボナー、ロー、氏亦本年三月三十一日議院に於て討論に際し、此問題に接觸したれども、何等の斷案を下すに至らざりき。而して英國に於て斯る制度に關する主張の盛なりしは、戰爭終熄の曉に如何なる形態を以てするも、獨逸に軍事賠償金を賦課して、以て軍事公債を償還する財源を收むる能はざるの豫想に基けるや、疑を容れず。と雖も、時局の急變今日の如く、此點に多少の望を繫ぎ得る以上は、徵課金制度に對する實際上の議論亦自ら動搖するを免かれざるなり。本論に於ては單に問題の兩面を覗うに止めたる所以なり。

物價騰貴の隱れたる重大原因

堀切善兵衛

我邦に於ける物價騰貴の原因として世間に指摘せられつゝあるものゝ中には歐洲戰爭の結果世界の生產界に各種物資供給の不足を告ぐるに至りたること、船腹不足の爲め需給の投合を缺くに至りたること、運賃の暴騰したること、通貨の膨脹買占又は賣惜等極めて多々あり、而して是等の事項たるや就れも直接又は間接に我邦に於ける物價騰貴を促したる重要原因たるは勿論、殆んど世界共通の物價騰貴を促したる世界共通の原因なりと云ふを障げざる可し。然れども是等世間の學者論客等に依りて已に指摘せられ且つ論難せられたる諸原因以外に、特に我邦に於て顯著なる物價騰貴の原因なきや否や、又其原因たるや戰爭の終結と共に終止すべきものや、將た一度騰貴を促したる以上は縱令今次の戰爭終止すと雖も將來再び物價の下落を誘導するが如き性質のものに非らざるなきや否や、思ふに是

等の點に就きて冷靜なる考究を必要とす可きもの決して尠少ならざる可しと信ず、從て以下心に浮びたる一問題に就きて私見を述べ以て物價問題研究の一助に資せんと欲するものなり。

吾人は我邦に於て特殊なる物價騰貴の原因として賣買兩當事者が平等の地位に立つに至りたる事實を擧げざる可らずと信ずるものなり、從來我邦に於ては賣買兩當事者か平等の地位に立ちたるものと認むるを得ず、買手は賣手に比し數段強者の地位に立ち賣手は常に買手に對し叩頭平身して只管其恩惠に浴せんと欲したりしや疑ふ可らず、即ち何種の取引賣買たるを問はず買手は常に大意張りにて賣手は別人種たるが如き觀なき能はざりしなり、之れ獨り我邦に於てのみならず苟くも經濟上の發達後れたる諸國に於て孰れも同樣なる次第にして其尤も著しきは賣手が殆んど乞食同然の態度を持する場合少なからざるを發見すべし、即ち彼等は其所有する何物かを價の高下を問はず之を賣却して直接生活資料を購入するの必要に迫られ居る場合には極力買手を見出さゞる可らず、其買手に於て需要さ程強からざる場合には賣手は只管哀訴嘆願して以て買手を動さゞるを得ざるなり、而して斯る際に臨みては賣手は勿論其代價の高低を云々する餘裕あるなく、唯買手の命ずるが儘に、代價を受取らざるを得ざる次第にして買手が巧みに掛引きを弄すれば弄するだけ代價は低下せざるを得ざる可し。

社會經濟上の發達極めて幼稚にして所謂孤立的自足經濟の域を脫せざる時代に於ては各經濟單位たる家族は各自の消費に必要なる物資を一切自ら供給し他の經濟單位との交換に依頼せざるを以て斯る時代には各經濟單位相互の地位は無差別平等にして一方のみ經濟上の強者にして他は弱者たるが如き事實あることなし、然るに經濟狀態少しく進歩して各單位の間に生產物の有無交換行はるゝに至り、更らに進んで交通經濟の時代に入り分業發達し各種職業の分立を來すや茲に初めて各經濟單位間の地位の不平等を見るに至ることを記憶せざる可らざるなり。

地位の不平等と云ふは必ずしも資力の不平等を意味するものに非ず、貧富の懸隔は孤立的家內經濟の時代に於ても、尙ほ存在す可きは明かなる所なるが故吾人は茲に之を云々せんとするものに非ず、又身分階級等の關係に付考慮せんと欲す

るものに非ず、要するに職業の分立と共に各職業間に人間の生活に必要缺く可らざる物資の生産に從事するものと、其分配消費の方面に從事するものと、必要品以外の物資の生産に從事するものと其分配消費の任に當るもの等の差別を生ずるに至るや疑を容れず、而して是等各種の職業中生活の必需品の生産に從事する者が其地位最も鞏固にして、萬一の場合に際しては他との交換を中止するも甚しき困難に遭遇せざる可しと雖も直接生活の必需品の生産に離るゝ職業ほど交換に重きを置かざるを得ず、從て萬一の場合に處しては如何なる犧牲を支拂ふも交換の目的を達して直接必要物資の供給を受けんと欲するに至る可し、こは獨り一國內の各人間に就て然るのみならず國際貿易關係に於ても亦然る所にして例へば穀物、肉類、鐵、木綿、石炭等の如き必需品を主として輸出する國家と奢侈品其他生活必需品以外のものを輸出する國とは萬一の場合に際し不平等の地位に立たざるを得ざるは明白なりと云ふ可し。

然りと雖も各經濟單位の地位の相異は其從事する職業が直接生活必需品の生產に關係するや否やの外に更らに他の原因より生ずることを觀過す可きに非らざるなり、他の原因とは何ぞ、他なし賣手が資力充實して一身一家を養ふに何等差支なきのみか將來に對する準備の爲めの餘裕を有するや、但しは無資產にして一身一家を養ふに急なるや否やの點之なり、若し賣手にして何等生活上の餘裕を存せざらんか、如何なる代價を以てするも其所有の物資を賣却して之を金錢に代へ更らに其金錢を以て自己又は其家族の爲めに必要なる生活資料を購入せざるを得ざるべし、故に斯の如き狀態の下に於ては需要供給の權衡は決して正當に保たるゝこと能はざるなし、即ち賣買兩當事者は非常に不平等なる地位に立ちて其取引を行ふものと稱せざるを得ず、されば既に立派に交換經濟の時代に入りて後も國民一般に資力充實せざる間は賣手は買手に比し經濟上の弱者たるを免る能はざるなり、吾人は斯の如き狀態の下に於て物價は不自然的に低きを斷言するを憚らざるなり、何となれば賣買兩當事者共に資力の充實したる社會、換言すれば經濟上に進歩したる會社に於ては賣るものも買ふものも必ず平等の地位に立ちて其間に自由競爭は完全に行はる可ければなり。

吾人は近頃に至るまで我國の經濟市場に於て賣買當事者が尙ほ頗る不平等の

地位に立ちつゝありし事實を否定すること能はざるなり、予は過日北海道に行くの際青森驛に下車したるに連絡船に至る迄の間道路の兩側に無數の男女林檎賣りが旅客に其購買を求むること殆んど乞食同樣の狀態なるを目擊して撫然たるもの有りしが斯の如きは從來我國に於ける有らゆる賣手に多少共通する態度なりと認むるを得可し、勿論各賣手間の競爭は或は好言令色を事とし或は哀願的態度に出づるが如きこと稀ならざる可しと雖も此種の術策若くは商業上の掛け引きを離れて、事實其生活上の必要が如何なる低價をも忍んで其所有する物資を賣放なたんと努めざる可らざる場合少なからず、我國に於ける農民の多くは從來疲弊殆んど其極に達し高利の負債山積して生活の困難甚しかりしが爲め其生產したる米穀其他野菜果物の如き價の如何を問ふの暇なくして賣却したる傾向あり、又輸出品の出產者の如きも唯賣却だに爲し得れば可なりと思惟する場合無きに非ず、即ち其產物は內地に需要を有せざるものなる場合には一朝海外に於ける賣行き困難となるや多額の損失を敢てして尙ほ其貨物の賣却を欲する場合少なからず、戰前に於て我輸出羽二重業者が紙よりも低廉なる價を以て之を賣却したりしが如きは其一例なりと云ふを得可し。

然るに歐洲戰爭の結果は我經濟界に激變を來さしめたるを疑ふ可らず、戰前の輸入超過國は一變して輸出超過國となり、債務國は忽ちにして債權國と化し、輸出超過、船舶保險料の取入れ等に依りて巨額の資金國內に流入し來り、通貨膨脹し、物價騰貴したると云ふまでもなし、而此增加したる資金は最初船舶業者若くは戰事關係の事業經營者等の手を通じて國內に流入したりしが漸次各階級各職業に分散せらるゝに至り又地方的に云ひば最初は關西、九州等の大都會地に吸收せられたりしが漸次全國到る所に散布せられしこと疑を容れざるなり、即地方農民の如きも農產物價格の騰貴により、或は生糸輸出の盛況と共に其副產業たる養蠶の利益に由りて少なからざる收益を爲したるが故、最早戰前の農民とは同一視す可きに非らざるなり、即ち彼等は少くとも法外なる廉價を以て其生產物を賣却するを餘儀なからしめらるゝ事なきに至りたるなり、換言すれば彼等が認めて以て相當代價と思惟する迄は之を持ち耐へ得る餘裕を生ずるに至りしものなり、人或は之を目して農民に投機思想の發生したる結果なりと爲すものあらん、然れども吾人

は之を以て投機とは全然異るものたることを認めざる能はざるなり、即ち平等の地位に立つもの同志が賣買を行ふには自己の意に滿つる代價の到來せざる間は之を賣却せざるは當然普通の經濟行爲にして何等怪むに足るものなし、之をしも投機なりとせんか總ての經濟行爲には投機を含むものと認めざるを得ざるなり、此關係は獨り物質財に就て然るのみならず勤勞に關しても亦同樣にして從來我國の勞働者は備主に對して甚しく不平等の地位に置かれたりしこと爭ふ可らず、彼等の勞銀は極めて低廉なりしが爲め不時の場合に處する爲めの貯蓄とては殆んどなく、其一身一家の糊口を塗せんが爲め如何なる條件をも忍んで勞働に從事するの止むを得ざる狀態なりしが戰後資本の國內に激增したる結果勞働に對する需要勃興し從て勞銀の增加となり多少の餘力を貯ふるを得るに至りしかば最早や餓を免るゝが爲めの勞働を爲す必要なきに至りたり、從て其の勞銀たるや自ら認めて適當なりと爲すに非らざれば備雇を拒絕するを得るに至れり、殊に近次の如く經濟界の好況なる間は各種の產業界に於て爭つて勞働者を得んと欲するが爲め其間に立ちて勞働者が自由選擇を爲し得るの範圍は益々大なるに至れり、

唯我國に於ては歐米諸國の如く勞働者の組織未だ完からず、故に勞働者の多數が一致團結して以て資本家と對立して完全なる平等の地位に立ちて勞働條件を決定する迄の域に達せずと雖も然も現に各地方に發生しつあるストライキは將に斯の如き時代に到達せんとしつゝある前提なりと認めざるを得ざるなり、少くとも飢餓を免れんが爲めの勞働は漸く變じて經濟的考慮を伴ひたる勞働たるに至りしは疑ふ可らず、而して其結果は勞銀の標準を高め、引きては之亦一般物價騰貴の一因となりしや云ふまでもなき所なり、然れども賣買當事者の地位が平等になりしこと、及び勞働者の多數が飢餓を免るゝが爲めの勞働を爲す必要なきに至りたるの事實は共に我經濟界の進步を語る尤も有力なる證左にして徒らに物價騰貴の惡影響のみを云々して他の一面を忘却するは吾人の採らざる所なるのみならず此種原因より來る物價の騰貴は戰爭終止すると雖も容易に其反動を現はすことなかる可きを信ずるものなり。